

The National Conference of Community Cinemas 2014 in Tokyo

全国コミュニティシネマ会議 2014

スクリーン体験 フォーエバー! —私たちはスクリーンで映画をみたい／みせたい

スクリーン体験、多くの人と一緒に大きなスクリーンで映画をみること。

少し前まで、映画をみることはスクリーン体験^{イコール}でした。

けれど、いまはちがいます。

テレビ、ビデオ (DVD)、インターネット (PCモニター)、携帯電話…映画をみる手段は多様化し、スクリーン体験は、

映画・映像の鑑賞方法のひとつ、最も特別な、贅沢な映画体験となっています。

映画観客動員数が最高を記録したのは1958年 (昭和33) で、11億2745万人でした。2013年の観客動員数は1億5588万人、最盛期の約10分の1になりました。

中小都市に数多く点在していた地元の興行者による映画館はこの10年で3分の2以上が閉館しました。

映画館の空白地域が広がりつつあります。

長年続いた映画館も映画祭も、シネマテークも、運営にまつわる苦勞でスタッフはかなり疲れています。

プログラム (予定) ※出演者等は変更になる場合がございます。ご了承ください。

10月22日 [水]

13:30-13:45 ▶ 主催者挨拶／コミュニティシネマセンター活動報告

13:45-14:30 ▶ **トーク** ▶ 長年、多くの素晴らしい映画に出演してこられた香川京子さんに、ご自身の映画が映画館で上映されたときの思い出、映画を観客に届ける映画館や映画祭の人たちとのふれあい、ご自身がスクリーンでであった映画のことなどをお話しいたします。
トークゲスト：香川京子 (女優)

14:40-15:30 ▶ **プレゼンテーション** ▶ 映画上映の現状、新しい振興プラン案を報告します。
映画上映振興策立案ワーキング・グループ／コミュニティシネマセンター

15:40-17:00 ▶ **ディスカッション** ▶ 映画監督、上映者、アートマネジメントの専門家等が、映画上映の現状、望ましい映画上映振興策、その実現についてディスカッションします。
司会：川村健一郎 (立命館大学准教授)
太下義之 (三菱UFJリサーチ&コンサルティング芸術・文化政策センターセンター長)
志尾睦子 (高崎映画祭／シネマテークたかさき代表)
藤岡朝子 (山形国際ドキュメンタリー映画祭理事)
吉田大八 (映画監督) ほか

17:15-18:00 ▶ **映画上映と解説** ▶ 「MoMA ニューヨーク近代美術館映画コレクション」関連企画

10月24日から開催される「MoMA ニューヨーク近代美術館映画コレクション」上映作品から3作品をプレミア上映します。

解説：「MoMA フィルムコレクションの魅力とFシネマ・プロジェクト」(仮)
岡島尚志 (東京国立近代美術館フィルムセンター主幹)

即強上

『**ニューヨークの地下鉄**』(1905/4分/24fps/35ミリ/無声/モノクロ/監督 G・W・ピッツァー)
1904年に開通したニューヨークの地下鉄。14丁目駅を出発した地下鉄が42丁目駅に到着するまでを記録している。監督はグリフィス作品の名カメラマンG・W・ピッツァー。公開当時のナイトレートのオリジナル・ネガからニュープリントを作成。

『**ニューマン劇場のお笑い漫画**』(1920/3分/23fps/35ミリ/無声/モノクロ/監督 ウォルト・ディズニー)
19歳のウォルト・ディズニーがカンザスシティのフランク・L・ニューマンの映画館のために制作したアニメーション。映画界の大立者となる以前のディズニーをみることができる貴重な作品。

『**イタリアン・アメリカン**』(1974/48分/35ミリ/カラー/監督 マーティン・スコセッシ) ※冒頭約10分のみ上映
若くして名声を得たマーティン・スコセッシが両親を撮影した貴重なドキュメンタリー。食卓を囲んで交わされる親子の会話から、苦しい時代を生きた、あるイタリア系移民の家族史が立ち上がる。クレジットの最後にスコセッシ家のイタリア料理のレシビが登場する。

18:05-18:55 ▶ **コミュニティシネマのプレゼンテーション**

CINEMA AMIGO (逗子市)／みやこほっこり映画祭 (宮古市)／横浜シネマリン (横浜市) ほか

19:15-20:45 ▶ **レセプション** (今回のレセプションは、CINEMA AMIGOがプロデュースします。お楽しみに。)

人々はもうスクリーン体験を必要としていないのでしょうか

映画館は、大都市とその周辺のショッピングモールにだけあればいいのでしょうか

高齢化、過疎化が進む中でスクリーン体験が失われても仕方がないのでしょうか

映画館 (スクリーン) が映画を、つくり手を育てている

映画館があるから映画がつくれる

映画には地域の人々を結びつける力がある

映画のもとに集まることで、新しいコミュニティが生まれる

新しい形で映画上映をスタートさせようとする人たちも増えています。

大きなスクリーンをみつめる子どもたちの期待に満ちた表情はいまも変わりありません。

新しい耀きを放ちはじめた“スクリーン体験”

これからも“スクリーン体験”が多様な形で生き続けるために、

今回の全国コミュニティシネマ会議では、新しい映画上映振興策をかんがえます。

10月23日 [木]

10:30-12:30 ▶ **セッション1** ▶ **コミュニティシネマとしての映画館** (シネマ・シンジケート・プロジェクト)

地域映画館 (「街なか映画館」)、ミニシアターのネットワークについてのセッション。
今年の会議で提案され実施されている「会員相互割引サービス」、そしてフェイスブック「ツール・ド・シネマ・ジャポン」を通じての全国ミニシアターの訪問紹介を振り返り、その活動の成果と今後の展開をディスカッションします。また、活動の歴史も観客の想定周辺人口も様々な映画館がネットワークを形成していくうえで必要とされているもの—今年の会議で問われたシネマ・シンジケートの存続と今後の在り方も含め幅広く話し合います。
司会：平野勇治 (名古屋シネマテーク)
吉田由利香 (京都市みなみ会館)／石橋秀彦 (豊劇新生プロジェクト) ほか

(休憩)

13:30-15:30 ▶ **セッション2** ▶ **Fシネマ・プロジェクト〜フィルムの上映環境を確保するために** (シネマテーク・プロジェクト)

どうすれば、フィルムでの上映環境を保持しつづけることができるのか。2014年度前期に実施した調査の報告を受け、F (フィルム) シネマに様々な形で関わる関係者が現状、課題について話し合います。

司会：内藤篤 (シネマヴェーラ渋谷)
とちぎあきら (東京国立近代美術館フィルムセンター)
新藤次郎 (株式会社近代映画協会)
高木希世江 (日活株式会社) ほか
プレゼンテーション：神田麻美／西川亜希

15:45-17:30 ▶ **セッション3** ▶ **コミュニティの中の映画祭の可能性**

全国各地で開催される“映画祭”。地域コミュニティにとって映画祭はどんな役割を果たしうるのか。身近な映画祭、新しく始まった映画祭の事例などを聞き、映画祭の意味、魅力を考えます。

コーディネーター：志尾睦子

MoMA ニューヨーク近代美術館 映画コレクション

10月24日 [金] から東京国立近代美術館フィルムセンターで特集上映「Film Treasures from The Museum of Modern Art / MoMA ニューヨーク近代美術館映画コレクション」が開催されます。

この特集では、MoMAが誇る多様で魅力的な作品群を美しいヴィンテージ・プリントでご覧いただけます。ご来場をお待ちしています。

期間：2014年10月24日 [金]—11月9日 [日] ※10月27日 [月]、11月3日 [月・祝] は休館日

会場：東京国立近代美術館フィルムセンター

主催：東京国立近代美術館フィルムセンター／一般社団法人コミュニティシネマセンター／東京国際映画祭
モーション・ピクチャー・アソシエーション (MPA) / 株式会社日本国際映画著作権協会
■この企画は、シネマテークプロジェクト / Fシネマ・プロジェクトの一環として実施するもので、東京上映の後、神戸、広島、山口、金沢、高知等でも開催します。

